

小学校第4学年音楽科学習指導案

指導者 教諭 ○○ ○○

- I 題材名 いろいろな音のひびきを感じ取ろう味わおう
教材名 「アルルの女」第2組曲からメヌエット (ビゼー作曲)
クラリネットポルカ (ポーランド民謡)
打楽器の音楽
茶色の小びん (芙龍明子 日本語訳/ジョセフ ウィナー作曲/浦田健次郎 編曲)

II 大会主題との関わり

【本時でイメージするより高まった児童の姿】

パートごとに様々な演奏を試したり、思いや意図を言葉や音で伝えあうことを繰り返したりしながら、思いや意図を膨らませ、曲の特徴を捉えた表現を工夫している児童の姿

III 本時の視点

パートごとに様々な演奏を試したり、思いや意図を言葉や音で伝え合ったりすることは、互いの表現のよさに気付くとともに、児童の思いや意図が膨らみ、曲の特徴を捉えて表現を工夫することに有効であったか。

IV 考察

1 題材観

本題材における学習内容の学習指導要領上の位置付けと、本題材で扱う主な音楽を形づくっている要素は以下のとおりである。

A表現

- (2) ア 器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもつこと。
イ (イ) 楽器の音色や響きと演奏の仕方との関わり
ウ (イ) 音色や響きに気を付けて、旋律楽器及び打楽器を演奏する技能
(ウ) 互いの楽器の音や副次的な旋律、伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する技能
(3) ア (イ) 音を音楽へと構成することを通して、どのようにまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもつこと。
イ (ア) いろいろな音の響きやそれらの組合せの特徴

B鑑賞

- (1) イ 曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて気付くこと。

本題材で扱う主な音楽を形づくっている要素

音色、旋律、リズム、音の重なり、拍、呼びかけとこたえ、強弱、反復、変化、フレーズ

本題材では、鑑賞教材を通して楽器の音色や旋律の特徴を感じ取りながら聴き、楽器の音色が旋律の特徴を際立たせることや様々な楽器の音色が重なる響きについて気付かせる。音楽づくりの学習では、それぞれのリズムカードに合う打楽器や効果的な奏法を見付けていく。そして、即興表現を楽しみながら、音のつなぎ方や重ね方による音色の違いや面白さに気付かせ、イメージに合った音楽に仕上げていく。器楽の学習では、演奏を通して各パートの旋律の特徴や役割に気付き、それらを生かした演奏の仕方を工夫していく。

教材については以下のとおりである。

「メヌエット」は、フルートの柔らかく優雅な音色と、3拍子のゆったりとしたのびやかな旋律が特徴の楽曲である。また、「クラリネットポルカ」は、クラリネットの豊かな音色や広い音域を十分に生かした、軽快でユーモラスな雰囲気のある曲である。そのため、この2曲の違いを聴き比べる活動を通して、それぞれの曲の旋律の特徴を生かした独奏楽器の音色のよさに気付いたり、異なる旋律や音色が重なる豊かな響きを感じ取ることでできる教材である。

「打楽器の音楽」は、図形のカードを楽譜に見立てて即興的に音で表したり、カードを組み合わせて、まとまりのある音楽に構成したりしながら、音の特徴を生かした音楽づくりをする。試行錯誤しながらカードを組合わせていく活動を通して、いろいろな音の響きの組み合わせや、つくった音のつなげ方、重ね方が生み出すよさや面白さを実感できる教材である。

「茶色の小びん」は、CMや公共の場等で一度は耳にしたことのある誰もが知っている楽曲であり、主な旋律、副次的な旋律、和音、低音パートの4つのパートで構成された合奏曲である。4つのパートの旋律はそれぞれが特徴的であり、パートの役割も理解しやすい。本教材では、パートごとに表現を工夫した演奏やそれぞれの旋律が全体の響きの中でどのように聴こえるかを聴き合うことで、互いの表現のよさに気づき、主旋律や副次的な旋律、和音、低音が生み出す響きを聴き合いながら合奏できるようにしていく。

なお、本題材の系統は以下の通りである。

学 年	題材名・内容	主な音楽を形づくっている要素
第1学年	「いろいろなおとをたのしもう」 ・音色に気を付けながら様々な鳴らし方を試したり、星空の様子に合った音楽表現の工夫をしたりする。	音色、リズム、音色、強弱 反復、呼びかけとこたえ
第2学年	「いろいろな音を楽しもう」 ・打楽器の音色の違いに気づき、演奏するまねをしたり、音色のよさや面白さを伝え合ったりする。	音色、リズム、強弱、拍、 呼びかけとこたえ
第3学年	「いろいろな音のひびきをかんとろう」 ・楽器の音の特徴や音色の違いを感じ取りながら、互いの楽器の音を聴いて合わせたり、楽器の音色に気を付けて音楽を聴いたりする。	音色、リズム、旋律、強弱、 音の重なり、拍、反復、変化、 呼びかけとこたえ
第4学年	「いろいろな音のひびきを感じ取ろう」 ・音色に気を付けながら、よりよい音の響き合いにあるように工夫して、合奏する。	音色、旋律、音の重なり、拍、 旋律、リズム、フレーズ、変化、 呼びかけとこたえ、強弱、反復
第5学年	「いろいろな音のひびきを味わおう」 ・声や楽器の音色や重なり合う響き、旋律の重なり方の変化に気を付けて、音楽を聴いたり、演奏したりする。	音色、リズム、旋律、強弱、音の 重なり、音階、調、拍、フレーズ、 反復、呼びかけとこたえ、変化、 音楽の縦と横の関係
第6学年	「いろいろな音のひびきを味わおう」 ・パートの役割や楽器の特徴を生かして全体の響きを味わって演奏したり、楽器の組合せから生まれる響きの美しさを味わって聴いたりする。	音色、リズム、速度、旋律、強弱、 音の重なり、拍、フレーズ、反復、 呼びかけとこたえ、変化、 音楽の縦と横の関係

2 児童の実態（男子○名、女子○名、計○名）

〈知識及び技能〉

～略～

〈思考力、判断力、表現力等〉

～略～

〈学びに向かう力、人間性等〉

～略～

V 目標

- 楽器の音色や旋律の特徴と、曲想との関わりに気付き、楽器の組み合わせや音の重なり方を生かして音楽をつくる技能や、演奏の仕方や他のパートの音を聴き合って演奏する技能を身につけることができるようにする。 【知識及び技能】
- 楽器の音色や旋律の特徴が生み出すよさなどを見いだしながら聴いたり、楽器の音色や旋律の特徴、パートの役割を生かした演奏や、音楽の仕組みを用いた音楽のつくり方について、思いや意図をもったりすることができるようにする。 【思考力・判断力・表現力等】
- 楽器の音色、旋律の特徴に着目し、曲や演奏のよさなどを感じ取りながら聴いたり、楽器の音色や旋律の特徴、パートの役割を生かして互いの音を聴き合いながら演奏したり、楽器の組み合わせ方や重ね方を工夫して音楽をつくったりする学習に進んで取り組むことができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】

VI 評価規準

ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能	エ 鑑賞の能力
①フルートとクラリネットの音色に興味・関心をもち、旋律の特徴や楽曲全体にわたる曲想を感じ取って、聴く学習に進んで取り組んでいる。 ②友達と音や言葉で交流し、打楽器の材質がもつ音の響きや演奏の仕方音色が変化することに気付き、打楽器をつかった音楽をつくる学習に進んで取り組もうとしている。 ③いろいろな旋律が重なり合う響きを感じ取りながら合奏する学習に進んで取り組もうとしている。	①それぞれのカードに合った表現ができる打楽器を材質や叩き方を試しながら見つけている。 ②音のつなげ方や重ね方が生み出すよさやおもしろさを、演奏を通して、気付いている。 ③旋律が重なり合う様々な響きからパートの役割に気付き、どのように演奏したいか思いや意図をもっている。 ④旋律の特徴やパートの役割を捉えた表現を工夫して演奏している。	①楽器の音色を生かした重ね方を工夫した音楽をつくり、友達と合わせて演奏している。 ②各旋律の特徴を理解し、手拍子や伴奏に合わせて階名唱をしたり、主な旋律を鍵盤ハーモニカで演奏したりしている。 ③他のパートの音を聴き合いながら、自分の音を合わせて合奏している。	①旋律の特徴と楽器の音色とのかかわりや異なる旋律が様々な楽器で重なるおもしろさを感じ取り、曲や演奏のよさについて考えをもち、曲全体を味わって聴いている。

VII 指導計画（全8時間 本時は7時間目）

過程	教材	時	学習活動	指導上の留意点
つかむ	クラリネット メヌエット ホルカ	1	○旋律の特徴に合った楽器の音色や異なる旋律や音色が重なり合う響きのよさを感じ取る。	○楽器の音色や旋律の特徴との関わりに気づけるように、他の楽器で演奏するメヌエットやクラリネットホルカの旋律と聴き比べる。
		評価規準(評価方法)	ア①、エ①（ワークシート、発言、行動観察）	
		2	○4種類のカードの図形から得たイメージに合う音の出し方を考え、演奏する。	○リズムカードから楽器を選ぶときには、打楽器の材質がもつ音の響きを生かした選択ができるように助言する。
		評価規準(評価方法)	ア② イ①（行動観察、演奏聴取、ワークシート）	
		3	○2人組で、つくった音をつなげたり、重ねたりする。	○児童の表現の変容や高まったことを具体的に伝え、全体で共有しながら表現力を伸ばして

追 求 す る	打 楽 器 の 音 楽		いけるようにする。
		評価規準（評価方法）	イ②（行動観察、演奏聴取、ワークシート）
ま と め る	茶 色 の 小 び ん	4	○楽器の組合せや演奏の仕方を工夫して、それぞれの楽器の音色を生かした組合せを考えて、音楽をつくる。 ○思いや意図を伝え合うことと、実際に音で試すことを繰り返し、比較しながら表現を決定できるように、活動の時間を十分に確保する。
		評価規準（評価方法）	ウ①（演奏聴取、ワークシート）
		5	○拍の流れにのって、4つのパートを階名唱したり、主な旋律を鍵盤ハーモニカで演奏したりする。 ○リズム打ちや階名唱を通して、旋律の特徴に気付くことができるようにする。
		評価規準（評価方法）	ア③、ウ②（演奏聴取、行動観察）
		6	○様々な重ね方を試しながら、各パートの役割を理解する。 ○声部ごとやパートの組合せを変えながら演奏し、響きの違いを考えられるようにする。
		評価規準（評価方法）	イ③（演奏聴取、ワークシート）
ま と め る	茶 色 の 小 び ん	7 本 時	○旋律の特徴やパートの役割を捉えた演奏の仕方を工夫する。 ○互いの表現のよさに気付くことができるように、パートごとの演奏を聴き合ったり、よいところや改善点を伝え合ったりする。
		評価規準（評価方法）	イ④（演奏聴取、ワークシート）
ま と め る	茶 色 の 小 び ん	8	○他のパートの音を聴き合いながら演奏したり、本題材の学習の内容を振り返ったりする。 ○本題材の学習内容を振り返る時間を設け、学習を生かした合奏ができるようにする。
		評価規準（評価方法）	ウ③（演奏聴取、ワークシート）

VIII 指導方針

（本題材を通して）

- ・これまでに習得した知識や技能を活用することができるよう、導入部分では、前時の学習を振り返る場面を設定する。
- ・器楽の苦手な児童も達成感のある活動ができるよう、演奏する箇所を限定したり、簡易にしたりする。
- ・児童の主体的な学びを促すよう、グループで共通の思いをもち、表現の工夫をする。
- ・次時への意欲をもてるよう、次時に向けて試したいことも含めた、本時の学びの振り返りをする。（つかむ過程では）

- ・旋律の特徴にふさわしい楽器の音色について考えるために、フルート（メヌエット）とクラリネット（クラリネットポルカ）で演奏している2曲と他の楽器で演奏する2曲を聴き比べるようにする。
- ・異なる旋律や音色が重なることで、より豊かな響きが生まれることにも気付けるようにするために、メヌエットでは、フルートの主旋律だけの演奏とハープの伴奏に合わせたフルートの演奏を聴き比べる。

（追求する過程では）

- ・児童が、思いや意図を音楽で伝えることができるよう、各パートの旋律の特徴や役割をもとに、それに合った表現の工夫を考えられるようにする。
- ・児童がイメージしたことと演奏を結びつけることができるよう、なぜそのように工夫したのかを、音楽を形づくっている要素を用いて説明する場面を設定する。
- ・互いのよさを認め合えるように、表現を工夫する場面では互いに演奏を聴き合う時間を設定する。
- ・器楽表現が高まったことを実感できるように、児童の表現について、意図的に教師が価値付けをし、全体で共有する。

(まとめる過程では)

- ・題材の学びをまとめる合奏で生かすために、音楽を形づくっている要素とその働きについて想起する。
- ・題材を通した学びが一目でわかるように、教材ごとの学習内容や児童の言葉等を模造紙にまとめ、掲示しておく。

IX 本時の学習（8時間中7時間目）

1 ねらい

イメージに合った音楽表現を言葉や音楽で伝え合う活動を通して、旋律の特徴やパートの役割を捉えた演奏を工夫することができるようにする。

2 展開

学 習 活 動	時間	支 援 及 び 留 意 点	観点 評価規準(方法)
<p>1 学習に臨む雰囲気をつくる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・②は、主な旋律をきれいに する役割があるんだね。長い音が多くて、なめらかな旋律だね。 ・④は、音楽を支えている感じだったね。 </div> <p>2 本時のめあてをつかむ。</p>	<p>2</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までに学習した内容を表にまとめたものを全員で読みながら、各パートの旋律の特徴やパートの役割について振り返る。 ・主な旋律を①パート、副次的な旋律を②パート、和音パートを③パート、低音パートを④パートとする。 	
<p>イメージにあった演奏にするために、旋律のとくちょうやパートの役わりを生かして工夫しよう。</p>			
<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・①は、主役の旋律だから音をはっきりさせてみんなにしっかりきこえるようにしたいな。 ・③は、弾んだ楽しい感じにしたいな。 ・①は、弾んだ感じにしたいな。 </div>		<ul style="list-style-type: none"> ・グループごとにどのような演奏にしたいか話し合う時間を設け、それぞれのパートが目指すイメージをはっきりとさせてから、グループ学習に取り組むようにする。また、互いにイメージを発表し合うことで、自分以外のパートにも意識が向けられるようにする。 	
<p>3 イメージに合った演奏にするために、音楽を形づくっている要素と関連付けながらグループで表現を探る。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・①は、楽しい感じにしたいから、タンギングを短くして、弾んだ感じにしよう。 ・②は、①の弾んだ感じが生かせ </div>	<p>30</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなで合奏をつくっていく意識を高めるために、学習の途中でグループのよい演奏を紹介したり、表現で迷っていることをクラス全体に投げかけてアドバイスを求めたりする。 ・マレットの選定で悩んでいるパートには、他のパートと合わせ 	

<p>るように、なめらかにしたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・弾んだ楽しい感じにしたいから、どのマレットを使おうかな。 ・①はしっかりと息を入れて強い音になったから、主役の旋律らしくなったね。 ・②は、ゴムのマレットで、やさしく叩いたら、なめらかになった。 	<p>て聴き比べながらイメージに合う音色を選べるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・途中で他のグループの演奏を聴き合うことで、器楽表現が高まったことを共有・共感できるようにする。 ・表現の工夫についてよさを伝え合うことで、互いに認め合ったり、自分の表現のよさを自覚したりできるようにする。 	<p>旋律の特徴やパートの役割を捉えた表現を工夫して演奏している。</p> <p>音楽表現の創意工夫 イー④ (演奏聴取、ワー</p>
<p>4 本時の学習のまとめをし、振り返る。</p>	<p>5</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童が思いや意図をもって音楽の活動に取り組むことによって、音楽表現が高まったことを具体的な事例をあげて伝える。 	
<p>〈現れてほしい児童の意識〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・①のパートはこの曲の主役なので、目立つように息をしっかりと入れてふきました。楽しいせんりつなので、タンギングを短くして、弾んだようにしました。 ・②のパートは、なめらかにして他のパートとの違いがでるようにしました。鉄琴をやさしく叩き、音がのびるゴムのマレットを選びました。 ・③パートは、弾んだ楽しい感じにしました。④の音をよく聴いて、タイミングを合わせました。マレットをボールがはねるように叩いたら弾んだ短い音がしました。 ・④パートは、拍をつくる指揮者の役割なので、同じ速さで弾くようにしました。みんながこの音を聴けるように、少し大きい音にしました。 		